

平成26年度 指導改善プラン

千代田区立麴町小学校

1 達成度調査及び児童の学習状況から見た成果と課題(4・5・6年) ○:成果 ◆:課題

	4年	5年	6年
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話の内容の聞き取りに関する問題については、約90%の児童が正答しており、達成率が高い。また、辞書の使い方も約85%の児童が正答しており、辞書の使い方が身に付いている。 ◆ 読む力（登場人物の心情を理解する力）・書く力は正答率が低く約60%にとどまっている。 ◆ ローマ字の活用は、正答率が低く課題が残っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「話す力・聞く力」の正答率が約93%と高く、達成率も約97%となっている。他の観点・領域においても全体的な達成率が約93%と高く、学習内容について十分に定着している。 ◆ 「文学的文章」の内容・主題の理解が定着していない児童が一部にいる。特に人物の心情の理解とそれらのことを表現する記述についての達成率が低い。これらの児童への個別指導が今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体的に、基礎的内容についての達成率が約89%と高くなっている。観点・領域別では、「話す・聞く力」と「文学的文章」の達成率が約92%と高い。 ◆ 自分の考えを文章で表す力、説明的文章を読み取る力が十分に定着していない児童が一部にいる。 ◆ 全体的に、記述式の設問に対する正答率がやや低く、無回答の児童も見られる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体的に達成率が高い。特に、社会的な知識や理解に関する達成率は90%を超え、十分に定着している。 ◆ 社会的な思考・判断・表現（ある事象から、どのようなことが考えられるか）については、全体から見ると正答率がやや低く、情報などを活用する力の定着には課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体としての達成率が約90%と高い。特に応用的な力の達成率が約92%と高く、身に付けた知識を活用していると言える。 ○ 疑問に感じたことがあると、すぐに地図帳やインターネット等で調べようとする児童が多く、社会的な事象についての関心が高い。 ◆ 一部の児童で記述式の正答率が低く、定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的に見て、達成率約89%と高い。特に「観察・資料活用の技能」の観点で達成率が高く、グラフや地図などの資料を読み取る力が十分身に付いていると言える。 ○ 単元別にみると、実践的に取り組んだ「米づくり」において正答率が特に高くなっている。 ◆ 資料を活用し、主体的に考え、判断し、表現する能力の定着が不十分である。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体的に達成率が高い。特に分数の計算、時刻と時間、長さの理解に関する達成率は90%を超え、十分に定着している。 ◆ 考えを活用し問題を解決する力についての問題は、正答率が低く60%を下回っている。理由を考えたり、比較して考えたりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 領域別では「数と計算」「量と測定」の達成率が高く、十分に定着している。特に基礎的な内容の達成率が高い。 ○ 観点別では、「技能」にかかわる学習の達成率が高く、よく理解している。 ◆ 領域別の「図形」の達成率が低い。特に作図についての正答率が低く、定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体的に、基礎的設問での達成率が約91%と高い。 ○ 領域別では、「数と計算」「図形」の達成率が特に高く、十分に習熟している児童が多いと言える。 ◆ 単元別に分析すると、「小数の計算」「単位量あたりの大きさ」で正答率が低い。 ◆ 計算の技能は概ね満足できる結果であるのに対し、その技能を文章問題などで適切に活用する能力が十分に身に付いていない児童が多い。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然事象についての知識や理解については、達成率が80%とほぼ達成している。 ◆ 科学的な思考・表現の正答率はやや低く、物事をどのようにとらえ考えるかについては課題がある。特に、身近な自然の観察については正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「科学的な思考・表現」の達成率が88%と高く、学習内容が定着している。 ○ 自分が興味があることや疑問に感じたことがあると、自ら調べようとする児童が多く、科学的な事象についての関心が高い。 ◆ 「観察・実験の技能」の達成率が低く、更なる定着を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観点別では「科学的な思考・表現」の達成率が高い。 ○ 領域別に見ると、「物質・エネルギー」の達成率が高くなっている。 ◆ 「生命・地球」の領域で達成率が約75%と低い。 ◆ 「科学的な思考・表現」の観点で、全体的には達成率が高いにもかかわらず、達成率が低い層がやや厚めになっている。

2 調査以外の教科についての成果と課題(4・5・6年)

体育 …体づくり運動を中心に校内研究を進めて取り組んでいることで、児童が自ら体力を高めようという意識が少しずつ見られるようになってきた。今後も新体力テストの結果や日常の体育の様子から、全学年において運動の基礎となる体力の向上を図るようにする。

総合的な学習の時間…自ら課題を見つけ、主体的に活動に取り組む力を伸ばすことができている。年間指導計画の見直しを行ったが、今後もそれぞれの学年に応じて柔軟に取り組んでいく必要がある。

3 調査以外の学年の成果と課題及び改善の取り組み(1・2・3年) ○:成果 ◆:課題、改善の取り組み

	1 年	2 年	3 年	
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○ 字形に気を付けながら平仮名の練習に繰り返し取り組んできたことで、正しく平仮名を書ける児童が多くなってきた。 ○ 音読の力を向上するために、家庭での音読練習に取り組みさせたことで、リズムやまとまりを意識して読むことができるようになってきた。 ◆ 助詞「は」「を」「へ」や、長音・拗音・促音・拗長音を正しく書けない児童がいるので、継続的に指導をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 元気に大きな声で音読のできる児童が多い。 ○ 物語文や説明文などは、言葉に気を付けて読むことができる。 ◆ 話や発表を聞く時の姿勢や態度の点で課題が多い。黙って最後まで聞くことや、話し手の目を見て聞くことを指導している。 ◆ 漢字の定着度合いに差があり、個別対応や家庭の協力が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 図書室の本を借りて、本をたくさん読んでいる児童が多い。 ○ 音読は様子や気持ちが分かるように読み方の工夫ができた。 ◆ 説明的文章の読解力が低い。書かれていることを正しく読み取ることについて重点をおいて今後も指導する。 ◆ 漢字を正確に書く力が十分とは言えない。丁寧に漢字練習に取り組んだり、小テスト等を定期的実施したりして繰り返し指導する。 	
社会	/		<ul style="list-style-type: none"> ○ 見学でメモしてきたことなどを活用して、新聞や白地図にまとめることができた。 ○ 自分たちの住む地域に興味をもち、意欲的に地域を見学することができた。 ◆ 方位や地図記号などがまだ定着していないので、繰り返し指導をする。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体物や算数ブロックを操作する活動を多く取り入れた結果、たし算やひき算の意味を理解する力が向上してきた。 ○ 算数タイルを操作しながら、計算スキルや計算カードに取り組んだ結果、10までの計算を正確にできるようになった。 ◆ 問題文を解釈して、問題を正しく解くことが難しい児童がいるので、式を読むという活動を意識させることを通して、理解を深めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの児童が意欲的に学習をしている。計算をすることや、測量などの算数的活動を楽しんで行っている。 ◆ 理解力に差があり、授業の中で定着度を見ながら進めていく必要がある。 ◆ 簡単な問題でもケアレスミスが目立つ。丁寧に問題を解く態度が身に付くように指導する。 ◆ 一部に作図や計測に時間がかかる児童がいる。今後たくさんの経験を積ませる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ かけ算やわり算などの四則計算については、ほとんどの児童が正しく処理できている。 ○ 自分なりの考えをもつことはできるが、その考えを分かりやすく説明することが苦手である。相手に分かりやすく説明する発表の仕方を指導していく。 ◆ 時間の計算や円の作図等、丁寧に思考したり作業したりすることが十分でない児童がいるので、個別指導の充実を図る。 	
理科	/		<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校で育てている植物や昆虫のお世話に意欲的に取り組み、成長の様子を観察することができた。 ◆ 観察に夢中になりすぎ、記録が十分に行えない児童がいる。観察と記録の活動の充実を図る。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> ○ 興味をもって校外学習に参加し体験活動からの気づきを、絵や言葉で表現することができた。 ○ 一人一鉢のアサガオを育て、継続的な観察活動に取り組んできたことで、植物の成長に関心をもち、大切に育てることができた。 ◆ 身近な人たちとかかわり合う体験の機会を増やし、かかわりの中から様々な気づきを促していけるようにしていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校外学習で動物園に行き、動物に対する興味、関心をもつようになった。 ○ 町探検を行い、学校の周りの施設や働いている人々に関心をもつようになった。 ○ 収穫を楽しみにしながら野菜のお世話を行い、植物に対する愛情が育ってきた。 ◆ 校内にいるウサギにも意識をもち、身近な動物にも愛着をもてるようにさせたい。 ◆ 周りの人々に目を向け、視野の広さを指導する必要がある。 ◆ 「自分のよさに気付く」という評価観点について、指導者の理解を深め、指導力を高める必要がある。 	/	

4 改善の方針

- ◎ 児童一人一人が確かな学力を身に付けられるように、算数における習熟度別少人数指導や各教科でのTT指導による授業等の充実を図る。
- ◎ 問題解決的な学習や体験的な学習の充実をさらに図り、身に付けた知識・技能を活用する学習活動を推進する。
- ◎ 学習の中で児童が達成感や充実感を味わえるような支援を工夫し、学ぶ意欲の向上を図る。
- ◎ 達成度が低い児童への個別指導やきめ細やかな指導の充実を図る。

5 学校としての改善の取り組み(4・5・6年)

	4年	5年	6年
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の気持ちを読み取り、読み取ったことを基にして話し合う時間の確保をし、読み取りを深められるようにする。 ・ 考えたことや想像したことと事実を分けて整理して書く機会を増やす。 ・ ローマ字を書いたり読んだりする活動を授業内に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「文学的文章」の内容・主題を理解できるようにするために、情景描写や登場人物の言動に着目しながら読み取りができるような指導の充実を図る。特に話し合い活動とノート指導を重視し、文章の表現方法に着目しながら、互いの考えを深め合ったり、読み取ったことを書きとめられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章で表現することへの抵抗をなくすために、すでに実施している帰りの会での「三行日記」を効果的に活用する。 ・ 目的や意図に応じ、全体を見通して事柄を整理し表現する力を養うために、授業の中で「自分なりに」考えをまとめる活動を充実させる。 ・ 説明的文章の読み取りのために、基本的な構造や接続語などの特徴について指導を充実させる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一つの資料を多方面から見て、読み取る方法を指導する。読み取ったことを基に、どのようなことが考えられるかをまとめる時間を確保する。 ・ まとめたことを発表し、友達の考えに増えることで自分の考えの参考になるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グラフやデータから得られる情報をもとに、自分の考えを述べたり、ノートにまとめたりする時間の確保を図る。 ・ ノートやワークシートに書いたものは必ず評価して返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表やグラフ、イラスト、年表を読み取り、さらにそこから考えられることを言葉や文章で表現する活動を充実させる。 ・ 特に公民分野の学習では、模擬選挙や模擬国会、模擬裁判などの体験的・実践的な活動を充実させ、学習内容の定着を図る。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟度別の学習で、問題を解決するための考えを自分の力でまとめられるようにする。 ・ 友達の考えに触れ、どのように考えたのかをわかり合えるよう、互いに説明し合う機会をもうける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 達成率が低かった「図形」の作図について重点的に指導できるようにする。特に個別に対応できるようにノート指導の充実を図る。 ・ 習熟に時間を要する児童については、フィードバックしながら繰り返し個別指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「数量関係」の文章問題においては、公式にとらわれず、数直線を用いて立式をする活動を徹底して繰り返し行う。 ・ 単元のまとめにおいて、加減乗除が混在する文章問題のプリントに取り組み、「思い込み」でなく、数量同士の関係を見極めて正しく立式できる力を身に付ける。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な自然の現状や、その変化を感じ取れるよう、校庭や校外学習などで折に触れ目を向けられるように指導する。 ・ 観察や実験などの結果からどのようなことを考えることができるか、自分で考える時間の確保をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的な観察・実験の時間を今以上に確保し、個々の児童が技能を向上できるようにする。 ・ 自然事象や実験器具などに触れる機会を意図的に設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「生命・地球」の領域において、実感を伴った理解を図るために、モデル実験を実際の自然事象と結びつけながら学習を進める。 ・ 「科学的な思考・表現」の底上げのために、できる限り「1人1実験」を心がけ、周囲に影響されず自分なりの考えをもてるようにする。

6 教員の改善の取り組み

- 年間指導計画、評価計画に基づき計画的に指導を行い、授業の充実を図る。
- 個に応じた指導を行うために、習熟度別少人数指導やTT指導による授業を計画的に行い、児童一人一人に確かな学力が身に付くように指導法を工夫する。
- 校内研究に関連して、体育科においては、児童が自ら体力を高めようという意識をさらに伸ばせるように系統的な指導の充実を図り、運動の基礎となる体力の向上を図るようにする。

7 検証方法

- 学期末には、各教科の単元ごとの達成度を調査し、児童の学習状況を把握し、学習の成果を考察する。
- 児童のノート・ワークシートの記録から児童一人一人の学習状況を把握し、学習の成果を考察する。
- 体育科においては、2学期末にも新体力テストを実施し、学習の成果を考察する。